

メンバー紹介

(掲載学年はトークセッション開催時)



博多屋柚羽さん (高3)
Yuzuha-Hakataya

水産高校3年生。課題魚を解決するコンテストで「アイゴ」の商品開発が全国1位を獲得。



西田明香里さん (高2)
Akari-Nishida

津屋崎中学校時代に中学生のボランティア委員会を設立。高校生になっても地域でのボランティア活動を楽しんでいる。



岩熊心良さん (高1)
Miro-Iwakuma

小学4年生から地域貢献の活動をはじめ、小学6年生で立ち上がったCS委員会の初代委員長。



田井中晃樹さん (中2)
Hiroki-Tainaka

令和7年1月から福岡東中学校生徒会長に就任。キッカケラボを通じて地域農家の課題解決に奮闘。

私たちの住む
福津市のリアル



ファシリテーターは
貴島道拓さん

2025年1月、市役所に集まってくれたのは市内でさまざまな活動を行う中高生。福津市の若者たちが何を考え、どのように奮闘し、未来を捉えているか、その素顔に迫るトークセッションを開催しました。



Talk session

福津市の未来をつなぐ若者トークセッション

ふくつなぎ

若者たちが等身大で語り合う
福津市の今と未来



夢と希望を
ミライに
つなぐ

ふくつなぎ
Talk session

けれどすごくうれしかったと言っていて、普段私たちにとっては当たり前になっていたけれど、やっぱり温かい地域だな、うれしいなと思うことができました。

「貴島さん」確かに、僕も最初びっくりしましたね。「挨拶してくれるのか」って。

「博多屋さん」子どもだけでなく、地域の人にもよく話かけてもらいますよね。

「田井中さん」僕もよく「どこにいくの」など話しかけられます。

「西田さん」知り合いではなくても、顔見知りぐらいの人はたくさんいますね。

「博多屋さん」地域のコミュニケーション能力がすごく高いですね。

「岩熊さん」福岡小学校では、校長先生自ら朝早くから校門に立って、挨拶の大切さ呼びかけてくれていました。

「西田さん」小・中学校でのあいさつ運動のおかげもあると思いますが、それが日常になっていることが良いと思います。

「貴島さん」自分たちでは気付けないことも福津市の良いところを周りの人が感じてくれていることも実はたくさんあるのかもしれないですね。併せてもったことだったと思うこともありますか。

「西田さん」インフラというか、バス事情が気になります。観光客にとってもですが、市内でも少し離れた地域に住んでいる祖母の家に行こうとしてもバスが1時間に1〜2本しかなく、車でないとなかなか自力では行けません。福津市には、神社や世界遺産を見に行きたいと思う人も多いと思うので、もう少し交通が発展してくれたら良いと思います。

「博多屋さん」確かに、バスは水産高校の前で大勢の人が乗って、さらに宮地嶽神社前で大勢の人が乗って、ものすごい状態になっているところもあります。

「岩熊さん」福岡駅から宮地嶽神社方面へ、スマホを見ながら歩く観光客を見ると、私もバスの便を増やしてほしいと感じます。

「貴島さん」なるほど、いろいろな意見が出ていますね。他はどうでしょう。

「田井中さん」僕が思うことは、福津市自体はものすごく都会でも田舎でもなく真ん中あたりに感じます。大きな病院へ行くにしても、買い物するにしても、少し車を走らせたなら北九州市と福岡市という大都市どちらにもすぐに行けて住みやすいのだと思います。

すいのでとても良いと思っています。それから、福津は農業もそうですが、魚が有名。特に鯛は漁獲量が多いと聞いています。関アジ、関サバのようにブランド化をして、福津の鯛として付加価値がつけば高く売れてお金が入る。財政として市にお金が入れば、先ほどから話に出ているインフラ、バスなどにも出資できる、さらに人が増えてもっと住みやすくなるという循環ができるのではないかと思います。

「貴島さん」いろいろつながりますね。

